

私の想い

集団生活と家庭



大崎幼稚園
園長
三浦 敏 春

幼稚園の集団生活では自分と同じ年齢の友達が多くいて、自分ではごはんを食べたり、自分で衣服を着脱したりしているのを実際に見る事が出来ます。そこで「自分も友達のようにやってみよう」という気持ちが出てきます。このように、集団生活では、自分と同じ年齢の友達の姿を知り、自分もやってみよう、負けずに頑張ろうと自発的に行動する気子供に起こさせ、子供同士がお互い競って育つのが集団生活です。

そして、集団生活は、お互いに

譲り合い、平等に分かち合い、力を出し合って協力することの意義を理解し、豊かな社会性を身に付ける事が出来る場です。こうしたことは、なかなか家庭では、身に付けにくい事だと思えます。

例えば、幼稚園の集団生活の中で、自由時間を考えると、交通事故等の心配ない安全な園庭で、思い切り走り回ったり、ジャンゲルジムやすべり台などの遊具で、遊んでいるうちに幼児期に必要な遊びのルール、そして様々な動きや体力を身に付けます。

「三つ子の魂百まで」という言葉がありますように、幼児期の3才・4才・5才は、集団生活の中で、沢山の経験をする事によって、人間の土台となる、道徳・体力・知力を形成する最も大切な時期です。

家庭では、子供は「まだ子供だし」〇〇が出来ないのも当然と周囲の人も決めてしまい、本人もその気になってしまいます。

家庭の中では、年齢相応の自覚

が芽生えにくいのではないかと思います。

家庭という温室で、大切に育てられた小さな子供達を、幼稚園で預かって、一人一人の個性を大切にしながら、いろいろな遊びや学習・英語・音楽・スポーツなどに、熱中させ、ほめ励まして、それぞれの分野の基本を築き、それと同時に、人としての大事な基礎を築くことを教育の基本にして来ました。

今後、多くの子供がしらすしらずのうちに互いに切磋琢磨する幼稚園という集団生活の出来る素晴らしい教育環境を最大限に生かして、子供達が、将来どんな困難にあっても決してくじけず、のびのびと元気に成長し、立派な大人になるように、幼児教育に努力していきたいと思えます。

編集後記

新年早々雪が降り寒い正月となりましたが、お元気で過ごしていらっしゃいますか。小さな虫たちは暖かい土の中でひっそり春を待っているのでしょうか、我々人間はそうはいかず毎日、「アイトヨ」、「コロヨ」と言いながら仕事をせずには、いられず大変な事です。

昨年十二月、東九州自動車の野方インターチェンジが開通し、沢山の車の往来がお聞きすると、交通量が半減しているとの事、これでは思惑が反対に向かいそうです。大崎町民の皆さん、考えましよう。どうすれば大崎町へ人を呼び込めるか。自治公民館、友達同士、女子会、仕事仲間、家庭団欒の中で話す事だと思えます。知恵が浮かびましたら我々にご一報下さい。

まだまだ寒い日が続きますが、ご自愛ください。

(小園孝一)

議会広報広聴常任委員会

- 委員長 宮本昭一 副委員長 小園孝一
- 委員 上原正一 委員 吉原信雄
- 委員 神崎文男 委員 諸木悦朗

発行責任者 大崎町議会議長 中倉毅